

に寺込み駆けでローン白独

中古車販売店「COCOCAR（ココカー）」を運営するhuman joint（ヒューマンジョイント、東京都品川区）は、債務整理や自己破産など過去の金融トラブルで大手自動車ローンの審査が通らない購入希望者を救おうと、独自基準で審査する「自社ローン」制度を導入している。車が欠かせない地方都市で生活再建を目指す人々の移動手段を確保する「駆け込み寺」として注目を集めている。

（足立英樹）

■震災を機に起業

斉藤博之社長（45）は福島県いわき市出身。11年前まで地元の金融会社で取引先の与信審査などを担当。そんな折、

2011年の東日本大震災で地元の惨状を目の当たりにした。「全ての財産を失い、生活が困窮する人々の役に立ちたい」と起業を決意。複数の企業経営を経て、17年に同社を設立した。18年にココカー

1号店を千葉県酒々井町に、20年に2号店を加須市三俣に開店した。

現在は主軸の中古車自社割賦販売業（直営5店、フランチャイズ1店）のほか、広告や飲食、コンサルティング業などを幅広く手がけている。

■独自の与信基準を設定

自動車ローンは通常、支払い遅延や多重債務など過去の信用情報を基に審査。取引状況は信用情報機関から各信販会社と共有され、その結果の可否が販売店に伝えられる。

「それでは過去さまたまな困難を乗り越え、現在を懸命に生きている方々がこの店に行っても断られるのは当たり前」と斉藤社長。残された道は現金一括購入しかなくなり、大半の人は車の購入を諦めてしまつた。そこで、同社は独自の与信基準を設定した自社ローンを開始。生活保護や反社会的勢力を除き、いわゆる「ブラックリスト」に載つてしまつた人でもローン審査



販売車両を点検整備するスタッフ＝加須市三俣の「COCOCAR 加須店」

う救希望者購入ぬ審査通

に通わりやすくなった。同社の話題は瞬く間に広がり、自社サイトには毎月千件を超える問い合わせが殺到。今後、人工知能（AI）を搭載したシステムに変更し処理能力を上げる。斉藤社長は「年間約250台を売り上げる（旗艦店の）加須店を筆頭に来期は35%アップの年商15億円を目指す」と意気込む。

■制御装置を自社開発

昨今の中古車業界では、ローンで保証人が立てられない場合、代わりに「エンジン制御装置」を取り付ける場合が多い。全球測位衛星システム（GPS）機能を備え、万が一の場合は遠隔でエンジンがかからないようにすることもできるからだ。しかし、市販の端末は高価なため、少しでも購入者の負担を減らすと、同社は業界初となるエンジン制御装置「ロケボ」を自社開発。2月から取り扱いを始めた。

「常に監視される」と勘違いされがちだが、位置情報を確認するのは緊急時のみ。操作も本社の限られたスタッフしかできない。むしろ盗難時の早期発見やバッテリー上がり未然に防げる機能面の効果もある。斉藤社長は「業界の古い慣習や固定概念にとらわれず、新しい一歩を踏み出す」とする皆さんに寄り添った事業を心がけたいと話している。